

あじえんだ

2007.3
第18号



富士光芒 (写真提供:富士忍野グランプリフォトコンテスト入賞作品)

Contents

- ◆2006年度桂川・相模川流域シンポジウム2
 - ・「一桂川・相模川水系—
水源地からの警告 ～誰が私たちの飲み水を守るのか～」
- ◆エコへの一歩6
 - ・ちょっぴり『eco』な生活
- ◆事業者部会の会員紹介 横須賀市上下水道局7
- ◆流域ウォッチング15 流域の魅力再発見8
- ◆さまざまな活動をしています10
 - 1 循環型まちづくりを訪ねるツアー(群馬県多野郡神流町)
 - 2 「無農薬緑地管理」は可能だ!(群馬県佐波郡玉村町)
- ◆シリーズ 生きものたちの語る相模川14
「サカマキガイ vs. コモチカワツボ vs. ヒメタニシ」12
- ◆いま流域で起きていること13
 - 1 神奈川県建具協同組合の活動—流域材の活用と工事で捨てられる木の有効活用—
 - 2 水源の里 忍野村
- ◆地域協議会だより15
 - ・桂川・東部地域協議会 ・さがみはら地域協議会
 - ・相模川湘南地域協議会 ・相模川よこはま地域協議会

各市町村の水環境保全への取組状況

2006年度桂川・相模川流域シンポジウムは、秋も深まる11月12日に、上野原市文化ホールで開かれました。

当日会場には、約200名が詰めかけ、参加者でいっぱいになりました。

今回のシンポジウムでは、山梨県内の流域各市町村から水環境保全に関する取組を発表してもらうことになりました。

短い時間で、市町村が抱えている環境問題や、その取組について分かりやすく説明することは難しいことですが、各市町村の協力により9市町村全部から報告をいただきました。

以下、概要を報告します。



会場は参加者でいっぱいに

山中湖村

湖の水質浄化・汚染対策では、公共下水道整備事業を積極的に推進している。昭和54年2月に着手し、現在計画区域の整備普及率は69.5%、接続率は79.1%である。湖面に接する一周の殆どが接続可能となり、CODもここ数十年間横ばい傾向からやや下向き傾向になってきている。

浄化槽・雑排水の終末処理は直接河川・湖・側溝への放流を村の要綱で全面禁止し、平成12年4月から全て敷地内蒸発発散方式（通称：土壌トレンチ方式）を採用している。

環境美化では、昭和44年6月から地元住民、事業所が参加し、湖畔一斉清掃を毎月2回実施。1回の参加者は約1,200人、その日の内に全量を村で回収する。一斉清掃で手が届かない場所の散乱ごみは、毎日車2台人員4名で巡回回収している。また、各種団体のボランティア活動により定期的散乱ごみの回収も行ってあり、これら参加人数は延べ1万人を超えている。

忍野村

住民やボランティア団体等により、桂川を維持管理するため、年に数回清掃活動を行っている。

忍野村の忍草漁業協同組合では魚釣りの解禁中は監視員が毎日ゴミ袋を持ち、ごみを回収している。また、魚釣りの解禁前の3月と禁漁期間に入ってから10～11月に清掃活動をおこなっており、年2回で合計約240人、2tトラックで約3台分のごみを回収している。

その他、漁協が音頭をとり、釣人等のボランティアを集め、8月と10月の年2回清掃活動を行っており、合計80人程が参加している。

忍野村観光協会では「水源の里忍野八海クリーンキャンペーン」を年1回実施し、一般から募集したボランティアを含め約100人が清掃活動を行い、2tトラック約2台分のごみを回収している。

清掃以外では、毎年、河川と忍野八海の水質の変化、有害物質の有無等について調査している。

家屋が点在し、一軒、二軒のために数百メートル下水道を引くのは容易なことではない。また、既設の単独処理浄化槽を合併処理浄化槽に入れ替えるには本人・行政に大きな負担がかかる。



市町村からの報告（富士吉田市）

富士吉田市

・平成17年度は住民による河川清掃活動（市は、ゴミ袋・軍手の支給、ゴミ収集車の手配を行う）を16回実施し、6,770kgを撤去した。また、河川清掃業務委託は6回実施し、3,245kgを撤去した。

入山川を守る会は昭和49年に発足し、毎月第2日曜日に清掃活動を実施している。

・富士吉田市「美しい富士の里」再生計画の目標は「水質改善の推進」市民や環境団体と協働して実施する河川清掃、「地下水の保全」山林の維持管理・富士山一斉清掃、「水辺の親水化」ホテルの再生や環境学習の役割を担う明見湖の整備、「汚水処理施設整備の促進」公共下水道の整備・個人設置型の浄化槽を普及させ、市民、事業者と連携・協働して取り組み「美しい富士の里」を実現していく。

・今後の水環境保全として、支援への体制作り協力団体へのバックアップ市民、事業者と連携・協働した取組総合的かつ計画的な施策の策定を実施していく。

富士河口湖町

「法定外目的税」の全国第1号として、平成13年7月導入した一人一日200円の「遊漁税」徴収がある。年間約30万人の釣り客が訪れ、環境への悪影響も深刻な中、遊漁税の導入により、一般財源に加え、税の目的に添った湖底及び湖畔の美化清掃やトイレの設置に充実が図られている。

次に、下水道及び合併処理浄化槽の推進について、下水道の現在の普及率は約70%で、今後、毎年3%程の整備が見込まれている。また、下水道の計画区域以外では、合併処理浄化槽の設置を義務付け、補助金を交付している。

毎年5月の大型連休前の日曜日に、河口湖を中心に町全域を、町民・企業・小中学生など約8千人でクリーンアップキャンペーンを実施し、町内ゴミゼロ運動として、ほぼ同規模で5月と10月の最終日曜日に清掃活動も実施している。

西桂町

毎年、4月の第一日曜日に川浚い、8月には富士山クリーン作戦での清掃の際、桂川、柄杓流川の河川清掃活動を行っている。

水質検査結果では、環境基準をクリアしており、全体的に良好な数値である。

富士山の伏流水のなかでも、一番おいしい層から湧き出ているのが西桂の水、といわれている。

都留市

鹿留川下流 おなん淵清掃

地域協働のまちづくり推進会による河川の漂流物の撤去作業及び上下流のごみ拾い。小船を用意し、川に浮いているプラ容器・発泡スチロールなど網で集め、ゴミ袋に入れ手渡しで、上の道まで運び、地

域の共同美化清掃を行っている。

美化推進指導員委嘱式 600人の環境美化協力員研修

都留市内の9地区に40人の美化推進指導員を委嘱し、不法投棄監視パトロール実施し、各自治会では、自治会の常会・組を単位として委嘱した600人の環境美化協力員によるゴミ分別指導や不法投棄の監視、美化活動を行っている。近年、市内7地区に創立された地域協働のまちづくり推進会、各事業所、諸団体で結成される実行委員会による清掃など、各諸団体のさまざまな活動が繰り広げられている。

地域清掃活動

河川の清掃活動で、古くから行われているのが市内一斉の定式。4月第1土・日曜日の農作業が始まる前に、各地域で灌漑用水路を中心に広まった堆積物の除去作業を行う。

田原の滝 こいのぼりまつり

地域と諸団体が協働で行う清掃活動である。終了後、景観を利用し、寄贈された鯉のぼりを吊るした「こいのぼりまつり」が行われる。

中学校と地域協議会合同清掃活動

地元の東桂中学校と桂川・東部地域協議会が共同で行う柄杓流川の清掃活動。各地域では川を大切にする意識、触れ合う意識が段々広がってきているが、以前の水辺を取り戻すには、まだまだ時間が必要である。



市町村からの報告（都留市）

大月市

清流と水辺・ふれあい推進事業

毎年、環境教育の一環として、市内小学校児童を対象とした「清流をまもる集い」を実施している。子供達に身近な河川の水質検査、水生生物調査や河川清掃を通して河川の現状を把握してもらい、河川美化学習に取り組んでいる。

エコ市民交流事業

毎年、市民に身近な環境を考えて頂くことを目的とし、環境イベントとして「おおつき市民エコフェスタ」を開催している。

水源地の整備・流域材の活用

水源地を中心とした森林整備計画を検討すると共に、流域材の活用を図り地域の活性化を推進する。
【大月市立猿橋小学校 流域材の活用状況（平成18年11月現在）】



市町村からの報告（上野原市）

上野原市

- ・市内小中学校への環境教育の普及に力を入れている。そのため、最近小中学生が環境問題で市役所へ訪ねてくるようになった。
- ・首都圏に近いので、不法投棄されたごみの撤去を行っているが、不法投棄は後を絶たない。その状況はNHKの番組の電話取材があった。
- ・環境基本計画の策定、委員の一般公募、また、「かながわ水源環境保全・再生施策」にも関心があり、水の安全性に注意を払っている。

道志村

- ・年1回、村内一斉の清掃活動を実施し、自治会、農協職員、小中学生、ボランティア団体などが参加している。
- ・全世帯を対象に、市町村設置型小型合併浄化槽の普及を行っている。平成18年度からは、横浜市の協力で、BOD10ppmの高度処理型合併処理浄化槽の設置を進めている。
- ・年1回定期河川底生生物の生息調査を行っている。ランクⅠのきれいな水に棲む生物が8種類確認され、道志川が清流であることが立証された。



市町村からの報告（道志村）

意見交換は宮野貴氏のコーディネートにより進められました

（意見交換の内容）

；山中湖村の合併処理浄化槽の排水を川に流さない土壌浄化の方法に興味があり、もっと詳しく知りたい。また、見学にも行きたい。

；下水処理の方法として流域下水道、農村集落排水、合併処理浄化槽と土壌浄化法を比べるべき。

水がいちばん綺麗になるのは土壌浄化法で、次に合併処理浄化槽、農村集落排水、最後が流域下水道の順ではないか。

コストは土壌浄化法がいちばん安い。25年前から自宅で実証済み。

山梨県の各市町村の努力で、この辺のことも考えて事業を進めてほしい。



盛況だったパネル展示の様子

；四街道市にもゴミのポイ捨て禁止条例が10年前にできているが、産業廃棄物の不法投棄などもあり、全然改善されていない。

浄化槽は、設置した後の維持管理をしっかりとしなければ水質が保てない。

猪苗代湖・五色沼を守ろうとごみ拾いのボランティアをやっている。

不法投棄に対しては、ゴミポイ捨て条例でも、罰則を厳しくするべきである。

；流域協議会の事業である流域ツアー＆ウォッチングでは、交流を図りながら、上流域を訪問している。

クリーンキャンペーンや浄化槽の問題も含めて、地元で活動している人やボランティアの人などと一緒に交流をし、上流の気遣いを下流へ伝えたい。



活発な意見交換の様子

；行政が流域下水道も合併処理浄化槽も一括して管理して欲しい。

既設の浄化槽は、行政が買い上げる。例えば、5年くらい下水道料金を払わなくていいと、または、現金を半額支給し、次の日から下水道料金を取る。管理は行政になるから、しっかりされる。

；浄化槽法の一部改正によって、2月から、浄化槽の維持管理と清掃の法定規則を守らない人には罰金を徴収する制度ができた。

これを如何に守らせるかが、行政の課題である。

山梨県内の先駆者として道志村の事業があり、横浜の水源林として、水質を守るため、村ではBODを10ppm（通常は20ppm）にする、市町村設置型の合併処理浄化槽を導入している。

国の施策は、下水道を推奨してきたが、ここへきて下水道では経費がかかりすぎるから、市町村設置型小型合併、個人設置型小型合併の浄化槽も推奨している。

；ごみを捨てる人は捨てる。捨てる人はひたすら捨てている現状です。

その原点をポイ捨て禁止条例にも加え、どう教育し、歯止めをかけていくかが、これからの大きな課題だと思う。

；実際に林業をしていると手入れができなくて弱っている。ハイキングなどに植林の下刈り、間伐を組み合わせ、田舎に遊びに行き少し作業を手伝いたいと考えている大都市の人との、交流団体を作りたい。山をきれいにして、都市と農村が仲良くできるようにしたらどうか。（上野原市民）

；非常にいい勉強会で参考になりました。わたしは現在環境問題の仕事をしており、群馬県嬭恋村のキャベツ農家では無農薬に取り組んでいます。

水の浄化に対する解決策を川で実証していて、相模川でも早く取り組みたいと思っています。

コーディネーター；非常に美しい景観の桂川の上流域ですが、水質やゴミ、浄化槽、山の問題等たくさんの課題があり、行政だけでは当然解決できないということで、この協議会ができている。

流域の問題が広い範囲まで影響を及ぼし、神奈川県では県民がお金を出し合って対策を講じようということになった。山梨県側もそれに負けないような行動を、神奈川県と連携し、市民・事業者・行政が一体となってやっていければと思います。



熱の入る宮野コーディネーター



ちょっぴり『eco』な生活

あらいそECOクラブ 鈴木 千春

私は相模原市に住む4歳と1歳の子を持つ専業主婦で、『eco』をかじりはじめて2年ほどになります。それというのも我が家の近くを流れる鳩川があまりきれいでないこと、相模原市南清掃工場や廃棄物処理場・座間キャンプなどが近く、ダイオキシンが他の地域より多い事を知り、少しでも環境に配慮した生活をしたいと思ったからです。普通？の専業主婦の私が実践してみた『eco』をご紹介します。

* ごみ編 *

【相模原市ごみ分別（昨年12月から）開始】確かに「紙」は重いし「プラ」はかさばる。分別開始で我が家の可燃ごみの量は減りましたが、生ごみ堆肥をやっている仲間には遠く及びません。困ったのは分別する場所と適当なゴミ箱が見つからない事。広報さがみはらに「こんなゴミ箱で分別しています」と載っていましたが、できればふたが欲しいし、あのダンボールは一体どこからみつけてきたのでしょうか？ホームセンターを何軒も回り、結局購入したのは「スリムストッカー」。大体冷蔵庫と同じくらいの高さに何段も重ね、下三段をごみ箱として使うことにしました。高い(Expensive)ごみ箱ですね。。

【堆肥ボックス(木製)で生ごみ堆肥】実はモニターで持っている堆肥ボックス。去年の寒い冬に始めましたが、着実に分解が進んで生ごみを土と混ぜているときは、なかなか楽しかったです。しかし、悪臭が発生して、腐葉土を取りにいけないまま気合が入らず休業中。

【ecoバッグ持参】でも、レジ袋ももらっているのでも「ecoバッグ」持参の意味がありませんね。。今収集中の玉ねぎの皮で染める風呂敷を作り、買ったものを颯爽と風呂敷につめたらちょっとステキかしら

【生協の生活クラブに加入】子供連れで買い物も大変なのと安心な食材を求めて個人宅配を利用。「3R」対策している、塩ビ製品を使わない・・・など環境に配慮されているので、『eco』活動に参加している気になっています。

* 石けん編 *

【石けんでお洗濯】色・柄がくっきり！特に泥汚れや子供の便(大)・油污れもちゃんと落ちてびっくりしました。でも、冬場は頑張っているのに粉石けんが溶け残り、2回すすぎをしても粉が洋服についているのを発見。再度お湯ですすぐと、CO₂を排出・水を大量に使い、私の貴重(?)な時間までも使っている。これは環境のためになっているのでしょうか？全自動なのに子供をそっちのけで何度も洗濯機を操作していると、とってもちつらくなって、かといって合成洗剤を使うには気がひけて液体石けんを使用中。

【キッチンで】仲間と作った廃油石けん、豆腐の容器に入れて作ったので、そのままスポンジでとり、食器を洗うのはとても便利でした。しかし、なくなってしまったので中性の合成洗剤を使用中。シンクやコンロ周り・油污れを磨くときなど市販の「重曹入り粉石けん」はよく落ちるし便利だと思います。

【お風呂で】石けんシャンプーと石けんシャンプー用リンス(クエン酸)は時々使っています。夏は汚れがよく落ちて、かゆみやにおいもスッキリでよかったのですが、冬は市販シャンプー&リンスのほうが楽な気がして。洗顔は作った「尿素入り廃油石けん」を使ってお肌はとってもしっとり。「グリセリン」などを使って化粧水も作ってみたいです。

と、まだまだこれから勉強しなければならない私ですが、日々子供に振り回されながらも『eco』に少しでも関われたらと思うのは、やっぱり子供や家族の未来のため、そして「仲間」がいて「できた時の達成感」や「楽しい事」が少しでもあるからだと思います。「便利」に流されない生活を送れるよう、出来ることを探していきたいと思っています



< 横須賀の上下水道のあゆみ >

横須賀市上下水道局 施設部浄水課

横須賀市の水道は、明治9年(1876)フランス人技師ヴェルニーが、市内走水の湧水を水源として横須賀造船所(旧製鉄所)まで引いたのが始まりです。横須賀市の下町は、井戸が少なく飲み水が足りなかったため、人々は「水売り」から水を買っていましたが、飲む水に困る状況の中、市は海軍の不用となった管の払下げを受け、埋立地の住民に給水を開始し、明治41年(1908)12月25日に市営水道ができました。

その後、終戦を迎え、昭和20年(1945)旧軍港水道の管理運営を引き継ぎましたが、人口も増え、市民の生活も変化し、水道需要が増大してきたので、神奈川県や横浜市、川崎市などと協力して、水不足に対応するために計画的な事業展開を行ってきました。

横須賀市内の水源は走水だけで、原水の殆どは市外の相模川や酒匂川に水源を求めています。系統的には、走水系統(2,000m³/日・市内走水) 半原系統(9,800m³/日・横須賀まで53km) 有馬浄水場(73,900m³/日・横須賀まで29km) 小雀系統(176,000m³/日・横須賀まで28km) 酒匂川系統(18,600m³/日・横須賀まで63km) 宮ヶ瀬系統(54,200m³/日・横須賀まで29km)などの6系統があります。

現在では、地震などの災害に強い水道施設を造ったり、古くなった施設を修理したりしながら、安全でおいしい水をいつでも使えるように取り組んでいます。



配水管布設：逸見地区(大正10年頃)

一方、横須賀市の下水道は昭和19年(1944)に上町地区に建設されたのが始まりです。しかし戦争が終わって暫くは工事の材料や資金の不足から工事がなかなか進みませんでした。その後、経済や産業の発展と共に、生活の向上、快適な環境にするため、昭和38年

(1963)から本格的に下水道の建設が始まりました。下水道の普及により、トイレが水洗化され、衛生的で住みよい環境となり、川や海がきれいになってきました。さらに美しい水環境となるように取り組んでいます。

これらの経緯や現状等において、効率化等を発揮させるように水道局と下水道部との組織統合を図る中で、平成16年度(2004)「横須賀上下水道事業マスタープラン2010 ~お客さまサービスの充実をめざして~」を策定して、経営目標の『お客様満足度を最大化する』を達成するため、協働運営と地域・社会との共生、効率的な経営による適正料金、安全な水の供給、安定した給水、快適で安全な生活空間の確保、まちのうるおいと美しい川や海の創出など、6つの柱により事業展開を図っています。

横須賀水道発祥の水源地の走水は、東京湾の入口に位置し、浦賀水道を挟んで房総半島が目の前に望める大変風光明媚で、春には桜の名所と知られ古事記、日本書紀にも登場している地です。

走水一帯には良質な湧水が多く、関東大震災のときも枯れることなく、良質な地下水を供給しています。特徴としては、全国でも珍しく水源が海岸にあるにもかかわらず、海水の影響はなく、干天や豪雨などの気象条件の変化にも湧水量や水質に変化がありません。湧き出す水は、昨今の雨水に由来するものではなく、20数年前の雨水が長い旅をして来た地下水ではないかと推定されます。

平成20年(2008)は水道創設100周年の大きな節目にあたり、さらなる安心な水、安全な水を提供し、横須賀水道の技術向上を知っていただくため、走水の原水を使用したペットボトルを製造することとしました。100年の歴史と永い旅をした走水の水口マンも一緒にご堪能いただければと思います。



走水覚栄寺裏山貯水池(明治41年完成)

流域の魅力再発見

過去に行った事業の再発見ということで、桂川・相模川流域に住む人々が魅力を感じる“とっておきの場所”を募集した、「流域ます」。

この事業は、これらの“とっておきの場所”を桂川・相模川流域協議会で情報として把握し、流域の環境保全に役立てていく。募集項目は、単に有名な名所・旧跡だけでなく、むしろ個人的な主観や感性に忠実に好きな場所、魅力がある場所、大切にしたい場所を形式をとりました。イメージを広げてもらうため、例として、「場所景観・風景・町並み。水辺環境、湧水、温泉。自然神社・仏閣。文化施設・イベント。伝統行事。伝統的産業」などさまざまな項目を募集しました。

この募集により、桂川・相模川流域協議会の活動をより多くの人々に知ってもらい、新たな参加者・協力者を募るといふねらいから、自分たちの地域の人に、地域を見直してもらおう機会にしようという期待もこめられています。事業の一部として、2003



桂川の支流のひとつ、上野原市を流れる鶴川沿いにある一ノ宮神社の御神木です。
この大きさ（樹高51.71m）は圧巻です。

④ 山梨県上野原市西原 「一宮神社の御神木」



② 山梨県西桂町 「新発見？ 桂川に第三の滝」

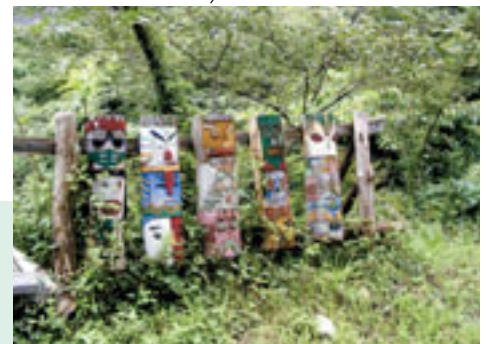
桂川の本流には2つの滝があることが知られている。都留市の田原ノ滝、忍野村の鐘山の滝である。ところが、これらのちょうど中間に写真のような滝がある。これが、滝として認知されているかはわからないが、一見の価値はある。

① 山梨県山中湖村 「大洞の水」

山中湖南側の静かな別荘集落の谷筋にあり、バードウォッチャー達に小鳥達の水飲み場として知られている。



③ 山梨県道志村 「道志川の鬼地蔵」



流域協議会の上下流交流会で発見した。移動のために歩いていたら、右手に物の気配がした。
何かと思えば、五体の鬼の顔があった。「コラ!!ゴミを捨てるナ」と睨んでいるようだった。今、この五体を私は「道志川の鬼地蔵」と呼んでいる。

の魅力再発見事業」を掲載し

ことを目的に実施しました。
い場所であり、これらを推薦し
・森・公園。遺跡・歴史・城跡。

や、流域という地域に住みなが
年・2004年の事業を紹介し

6 神奈川県綾瀬市
「三地蔵の脇の湧き水」

綾瀬市城山公園下、海に向かって舌状に
延びる座間丘陵崖線の南端付近。

水が木の根本の祠からわき出ているよ
うに見え、最も印象的である。



7 神奈川県海老名市河原口
「河畔公園の景色」

河畔公園にはたくさんの桜があり、春に
はうす紅色の花で空をおおい、夏には緑の
葉を広げて日陰を作り、秋には七色のえの
ぐでモザイク画を描き、冬には葉を落として
丹沢の山並みを見せてくれる。

同じ場所なのに四季の景色の移ろいの
なんと豊かなことか。



5 神奈川県海老名市
「土堀の農業排水路とその周辺の田圃」

左写真の小川(土堀の排水路)は自然河川で
はない。祖先が苦労を重ね、累々と築いてきた
相模川用水施設の一部である。

主催：NPO法人 建物と人と環境のフォーラム

循環型まちづくりを訪ねるツアー（群馬県多野郡神流町）

—ダム湖の土砂堆積を救う「石丸積工法」11月29日—

倉橋 満知子

秋も深まった11月29日群馬県多野郡^{かなまち}神流町へNPO法人建物と人と環境のフォーラム主催の石積み砂防堰堤の見学研修に参加してきました。

関越道の藤岡インタ-を降りて、秩父の山へ神流川に沿って奥へ奥へと進んで行きました。町の境界に秩父セメントを採取する山があり、周りの山々は岩盤で覆われていました。神流川の両側は急峻で平地が少なく、急斜面に石垣を積んだ家が多く見られました。平成15年に万場町と中里村が合併し、神流町となり、人口3,200人の小さな山間の町でした。



神流川

恐竜の足跡の化石が出たところでもあり、ユニークで、おもしろい「神流町恐竜センター」（見学価値あり）などもあって、神流川から生産される庭石^{さんばせき}と多くの石積み職人がいる町でもあります。

私たちはまず町役場で小林助役や、石積協同組合の方々から、「石丸積」工法の説明を受けました。

この「石丸積」工法とは、コンクリートを全く使用せず、現地発生材を使用して、石を垂直に積む工法に特徴があり、水の浄化を助け、微生物をはじめ、魚や生き物の生態系によい、多自然型工法であるということでした。そのうえ、コストが安いという、いいこと尽くめのお話を聞いて実際に砂防堰堤を見学に行きました。

見学現場は下久保ダムの上流部にあたり、ダム湖の宿命である土砂の堆積を解決する方法として、取り入れたということで、写真で見るとより周りの自然に溶け込んでいて、違和感がなかった。大きめの石と石が



神流町役場にて「石丸積工法」の話聞く

組み込まれた間から、水が順番に流れ落ちて、小さな滝が次から次へと伝わり落ちていく。コンクリート堰堤のように水底がえぐられていない。また堰堤面に残り残された土砂が堆積しているが、面積が小さいので、洪水期に取り除くことが簡単でヘドロ状にならない。魚類も石と石の間に逃げ込めるので、鳥（特にカワウ）から攻撃されない。水が石の間を通過していくので、浄化されている。見るに値すると実感しましたし、桂川、相模川の無機質な砂防ダムやテトラポットが目につかび、桂川、相模川でもぜひ実証してみたいと心に残った見学会でした。



「石丸積工法」による砂防ダム

『無農薬緑地管理』は可能だ！ (群馬県佐波郡玉村町)

—その実践例 於：玉村町東部スポーツ広場公園 11月30日—

NPO法人 建物と人と環境のフォーラム 黒木 昭文

サクラの病害虫予防には剪定・整枝作業がベストである。草分けの青森県弘前市での実績があるし、わたしも、ここ十年ほど、農薬散布をしていない。しかし、全国的にみれば普及していないのが実情だ。理由は「サクラきる馬鹿」という迷信をベースに、サクラの剪定は難しいと誤解されていることにあると思う。



玉村町都市建設課の方々に「無農薬緑地管理」の資料を手渡す

サクラ(主にソメイヨシノ)は園芸種である。当然ながら人間の手入れが欠かせない。「いいとこどり」の結果、環境適応能力・再生能力、いわゆる野生が低下しているからだ。山桜は森で暮らせるが、サクラは人間の傍らでしか生きられない。アメリカシロヒトリはこんなサクラの事情をよく知っている。

彼らに学び、農薬に飛びつかず、人事を尽くしてみよう。要件をみればサクラの剪定は難しくない。

剪定時期/完全落葉直後から芽が動き出す直前まで/期間は地域によってちがうから注意。養生期間を充分にとるとのこと。腹切った翌日から動き出す人はいない。太い枝は早めに、細かい枝はぼちぼちでいい。いっぺんに一本全部を仕上げようとしないで、巡回して作業することが肝要。

仕方・仕口/「切り返し」の技法・徒長枝ばかりではなく強い枝もきる。

枝分かれしている部分で、必ず一本二本枝を残して、断面をなめらかにできるだけ残さずきる。そうしないと箒状に枝が発生して樹形が乱れたり、ときに腐朽してテングス病を招く。極端に強い枝が、周囲の枝の展開を阻害している場合がある。全体の将来性を考慮し



サクラの剪定

で残す枝を選択したい。いいかえれば、数年後の樹形をイメージしながら作業すること。現在とは完了ではなく、つねに過程である。

切断面の保護/できれば自家製がよい。

やむをえずの時期はずれ剪定作業もある。腐朽菌の侵入を阻止する融合剤・殺菌剤を切り口に塗布しなければならないが、市販のものより、発生した剪定枝を蒸し焼きにして「黒灰」をつくり、適当な樹脂、たとえば木工ボンドに混ぜて塗れば、まことに環境循環システムにかなうし効果も期待できる。なにせ自前であるから。「持ち出さず、持ち込まない」を信条としてやってみることが「農薬を使用しない緑地管理」の第一歩である。



切断面の保護

サカマキガイ VS コモチカワツボ VS ヒメタニシ

文・イラスト 浜口 哲一（平塚市博物館 館長）

サカマキガイ：おい、お前。見かけない奴だな。体が小さいからって、見逃されると思ったら大間違いだ。おおかた^{よそもの}余所者なんだろ。

コモチカワツボ：あ、私のことね。仁義をきらなかったのが、お気にさわったのならご免なさい。ニュージーランド生まれの巻き貝でコモチカワツボと申します。日本に来たのも、相模川に住み着いたのもつい最近のことよ。

サカマキガイ：どの川にも、我々のような先住者がいるんだから、挨拶くらいはしなないと。まったく、最近^{やから}の輩は・・・。

ヒメタニシ：おいおい、サカマキのだんな、黙って聞いてればいい気になって。余所者がどうしたって。自分だって立派な余所者じゃないか。目くそ鼻くそを笑うのたくいだね。ヨーロッパ生まれに大きな顔してもらいたくはないもんだ。

コモチカワツボ：えっ、そうなの。ひどいじゃない。自分も外国生まれのくせに、他人を責めるなんて。目立たないようにやってるんだから、よけいなこと言わないで欲しいわ。

ヒメタニシ：コモチカワツボ嬢が目立たないことは確かだけど、だからよし、というわけにはいかないんだよ。我々、地つきのものからすれば、大歓迎とはいかないことくらい分かるだろ。

サカマキガイ：そうは言っても、我々サカマキガイが住んでいるのは、川が一番汚れた所だ。人間たちは、我々を汚れた水の指標にしているとか聞いたぞ。人間が川を汚して、ヒメタニシ君とか、もともといた貝が住めなくなった所に住みついたわけだから、我々を責めるのはお門違いじゃないか。実際、ヘドロに近くな

ったような川でも、有機物をもりもり食べて、少しは川を浄化している我々の努力を評価して欲しいね。

ヒメタニシ：もちろん、君たちを追い出しただけで、昔の川が取り戻せるわけじゃないことは確かだ。まずは、水質をもっとよくする必要がある。特に小出川とか目久尻川のような支流では、まだまだ努力が足りない。しかし、水がきれいになった暁には、君たちに退いてほしいというのが率直な気持ちだね。

コモチカワツボ：ヒメタニシさんのおっしゃること、よく分かりました。もともといた貝の皆さんが戻ってらしたら、私、身をひきます。

サカマキガイ：そう素直にならなくてもいいんじゃないか。競争社会なんだから、強いものが勝ち残ればいいのさ。

ヒメタニシ：まあ、サカマキのだんなの言うことも一理あるよ。君たちだって生きる権利はあるわけだからね。人間たちには、一度余所者を持ち込むと、必ずこういう問題が起きることを肝に銘じて欲しいもんだな。

出席者のプロフィール

サカマキガイ：ヨーロッパ原産で左巻きの巻き貝。殻は薄く、汚れた水にすむ。最大1cm。

コモチカワツボ：ニュージーランド原産で右巻きの巻き貝。近年、県内に広がっていることが確認された。5～6mmくらい。

ヒメタニシ：水田や川の下流にすむ右巻きの巻き貝。相模川では少ない。最大3cm。



サカマキガイ



コモチカワツボ



ヒメタニシ

流域材の活用と工事で捨てられる木の有効活用

神奈川県建具協同組合 県産木材開発事業室 室長 蓑島 良一

私たち神奈川県建具協同組合には、21支部200社が加盟しております。

藤沢市に事務所を構え、月に一度理事会を開き、青年部も充実した組合です。

県産木材開発事業室を立ち上げた理由は、言われた物を作っているだけでなく、提案し世の中に貢献できる仕事により近づく事業に技術を伝承でき、ヤリガイのある仕事にしていきたいとの声が若手に有り、2002年より準備会を経て新たな室、県産木材開発事業室を立ち上げました。

当初はジャパン2001というイベントがイギリスで開催され、日本民家再生リサイクル協会が岡崎の建物を移築し、建具組合が新たな建具を寄贈するという事業を行いました。



イギリス ロイヤルキューガーデン内バンブーガーデン

その時に建具組合が結集し、若手中心に募金活動。2名で現地に採寸に行き製作。13名で取付にイギリスへ渡り、無事帰国しました。

その後「みんなで仕事をするのも良いよね」と言っていました。そこに「県産材を使ってみないか」との声が、神奈川県森林課（旧林務課）よりあり、講習会や事例の西川材視察などをして組合で準備会を作り、のちに県産木材開発事業室を立ち上げ、イベント講習会などに参加して多くの人に出会い、作品も増え、自分たちの主催イベントなどを数十回してきました。

仕事も徐々に増えてきました。つまり材料を消費しています。

緑のダム北相模の人達を通じ、桂川・相模川流域協議会の人達と知り合いました。



岩手県産材使用 JR紫波中央駅舎

岩手県紫波郡紫波町の森づくり研修や大月市の物件視察勉強会などにも参加させていただいています。

大学の文化祭に県産材の家具展示、相模原市立環境情報センターの家具類書棚やイスなどを、流域協議会からの提案で計画から係わり、県産材で製作し納めました。

また、相模原市のさがみ縦貫道路のインターチェンジの道路拡幅工事に伴い、伐採される木をゴミにするのではなく、生かし使ってみようとして、松・桜・楠・榎などをもらいうけ、仲間三人で分け、楠と榎は長野に持って行って使われる予定です。

後は製材所で挽いてもらい今乾かしています。そうした活動は建具組合だけではとてもできません。お互いに連携し助け合っていくと仲間たちが育ち、山や川が良くなり、広がりが出てくると思います。



相模原市道路拡幅現場 県道52号線当麻付近

これからも連携し交流を図っていきたくと思っています。

水源の里 忍野村

忍野村 地域振興課 長田 尚丸

今年で3回目となる清掃イベント（水源の里・忍野八海クリーンキャンペーン）は忍野村観光協会主催で開催され、本清掃活動も忍野八海周辺の住民はもとより地域住民にも認識されるまでのイベントになりつつあります。



忍野村クリーンキャンペーンの風景

また、本イベント開催の際には清掃活動を手伝って頂いたボランティアさんを対象に、観光ガイドを実施しており、「ふるさと忍野案内人」による忍野村及び忍野八海周辺の歴史・文化等を紹介しております。平成18年度は約1,000名の観光客をご案内し、観光客及び村内観光業者等にも評判の良い観光振興事業となっております。

現在、忍野八海は富士山信仰との強いつながりから、行政と忍野八海周辺の地域住民が一体となって世界文化遺産登録へ向けて協議会や研修会を随時開催しております。



クリーンキャンペーンで集まったゴミ

〔忍野八海の紹介〕

その昔、自然豊かな忍野盆地に旧忍野湖がよこたわっていました。やがて、湖は富士山噴火活動期を経て、徐々に富士裾野と御坂山系との狭間を水蝕、掘削排水され、長い期間の後、ついに湖は涸れました。しかし、富士山の伏流水に水源を発する湧水池が幾つか残りました。その代表的な湧水が忍野八海です。

江戸時代、古跡霊場として富士道者はこの池で水垢離みずどりをして富士山に登りました。忍野八海から湧出した水は村内水田地帯への供給や水力発電に利用され、また、桂川最上流の水源として遠く相模湾へ通じ、京浜地方の給水源として重要な役割を果たしています。現在の忍野八海は「形状、水質、水量、保全状況、景観、仏教思想（富士山信仰）など」の観点から、昭和9年に国の天然記念物に指定され、また、昭和60年に環境庁から全国名水百選に選定されました。また、平成6年の山梨県新富嶽百景選定地でもあります。



忍野八海 湧池



地域協議会だより

桂川・東部地域協議会

大月市笹子町での大月森づくり会主催「植樹体験」事業に参加(4/30)。総会・講演「FSCの森林管理認証制度について」(5/7)。流域協議会が参加する「全国水質一斉調査」への協力参加(6/4)。大月市七保町での「自然体験」事業(7/22)。猿橋の下(桂川)での「川の中の実態調査(水中撮影)」(8/25)。「排水処理研究事業」の一環としての合併処理浄化槽先進地(旧牧丘町及び旧三富村)視察(9/5)。全国環境整備事業協同組合連合会会長を講師に迎えての合併浄化槽研修会(9/27)。桂川流域の合併浄化槽先進地(道志村)視察(10/3)。上野原市鶴川支流のクリーンキャンペーン(9/15)。上野原市文化ホールにて開催された「流域シンポジウム」への参加・協力(11/12)。1ヶ月測定で平成18年8月から5ヶ月間上野原市の測定ポイントにて「NO₂測定」を実施。3/21(水)に「第6回きのこ植菌体験教室」を開催。

さがみはら地域協議会

(10/21・22)相模原市の「みんなの消費生活展」に「桂川・相模川流域協議会」として出展しPRしました。2日間で来場者1,350人。「里山体験講座事業」第4回(11/26)「収穫祭」、参加者50名、子供たちに鳩川の生き物(9種)の説明を実施し、パックテストと餅つきを体験してもらった。第5回(12/10)「里山の手入れ」、枯葉を集め、堆肥作りを体験してもらった。「魚道調査事業」(1/13)中津川支流の串川・下倉川・藤木川・下河原川の4ヶ所を調査、参加者16名(さがみはら地域協議会より8名参加)3/13にも実施。「生ごみ堆肥化事業」として、3/17に「生ごみフォーラム～生ごみは宝物～」を開催。相模原市内の生ごみ資源化の取組事例を紹介し、市民・事業者・行政で生ごみの未来を考えていく。4/21にさがみはら地域協議会の総会を開催予定。来年度は里山体験講座を継続予定(6・10・11月の3回)、新規事業として相模原市合併に伴い支流が増えるので「川の探検」を計画中。

相模川湘南地域協議会

2006年度後半の活動：9/18平塚市博物館で見学学習会「展示にみる相模川の姿と相模川の舟運の歴史」参加者16人。9/23「木を切り出すところから見せる流域材の家づくり」地協からの参加2人。10/14現地観察会「相模川下流部左岸に広がる水害防備林」参加者5人¹。11/2学習会「今年の各河川の水質はどうだったか」(茅ヶ崎市役所)、流域協議会会員宮野貴氏の講演の後、水質測定に参加した各会員からの報告、参加20人²。10月末「湘南野鳥図鑑」5000部を刊行、地域の公共施設、教育関係、環境市民団体などに配布、神奈川新聞に掲載される。11/12桂川・相模川流域協議会シンポジウム「水源地からの警告」地域協議会からの参加2人、「湘南野鳥図鑑」をパネル展示で紹介。'07/3/11シンポジウム「湘南の豊かな自然に生きる野鳥たち」平塚市博物館。(1 湘南ケーブルテレビの取材あり 2 湘南ケーブルテレビ・神奈川新聞の取材あり)

相模川よこはま地域協議会

水源地域でもある藤野町篠原地区において行われた地域ぐるみの「ぐるっとお散歩篠原展」(10/09)に地域協議会役員等が自主的に5名参加。旧篠原小学校で石釜のピザを堪能。神奈川県主催の「アジェンダの日」(10/21-22)に相模川よこはま地域協議会として役員・事務局総出で出展。出展内容は、流域協議会本体の活動と、他地域の3協議会も紹介。「かながわ水源環境保全・再生県民シンポジウム～全国に学ぶ～」(10/28)に役員3名が自主参加。横浜国大主催の流域GISプラットフォームづくりのキックオフ会議(11/09)に地域協議会役員等出席。内水面試験場と近場の相模川河岸で行われた神奈川県地球温暖化推進員等研修会・みず専門分科会第1回(11/10)の開催に協力。地域協議会のメンバーが講師としても協力。流域シンポジウム(11/12)に横浜市水道白書(水源・水質の資料)も展示して関心を集めた。柏尾川と横浜市栄第2水再生センターで行われた同みず専門分科会第2回(11/17)の開催に協力。酒匂川流域での活動団体「みかんの花咲く丘」等とのエコ流域交流会(12/12)を開催し、36名の子どもづれの家族参加。健康にとって水の大切さを学習した。「地球温暖化の集い2007」みず分科会(12/17)開催に協力。相模川の支流における魚道調査(01/13)に役員参加。市民活動フェア2007(03/17-18)出展。水源地域学習会(七沢、宮ヶ瀬)(3/24)開催。

「水辺の探鳥マップと湘南野鳥図鑑」について

相模川湘南地域協議会 バードマップグループ

峯谷 一好

このバードマップは、“野鳥の観察を通じ、水辺や河川、丘陵地の豊かさを実感し、湘南の近郊に残る自然を大切にしていきたい”“このバードマップにより、湘南地域の川の環境を知ってもらい相模川湘南地域協議会の活動の環を広げたい”と、小宮昇さんにより3年前に企画提案され、彼の活動を財産にして、昨年10月末に完成しました。掲載したコラムなどから、小宮さんの思いを感じて頂ければ幸いです。

また、このバードマップは賛同された多くの方の情熱と支援によって作られました。図鑑には湘南で見られる代表的な野鳥110種を載せておりますが、その写真の多くは、茅ヶ崎で自然観察、自然保護に携われ、沢山の野鳥たちの貴重な生態を撮られていた小室明彦さんから、提供頂いたものです。「いつ頃撮られたものですか」とお聞きしました所「40代の頃が一番多いかな」とお答え頂きました。長い時間をかけて記録された写真には、今はなかなか見かけなくなった鳥たちの誇らしげな生態が写しだされています。撮影時の豊かな自然を取り戻し、次の時代に継承していくことの責務を感じました。

野鳥の解説は、平塚・大磯で野鳥観察を続けている[こまたん]の田端裕さんに書いて頂きました。私は短い文面の中のリズム感と、何より野鳥に対する愛情とその生息環境に対する危機感が凝縮した緊張感あふれる表現がとてもうれしくて、一つ一つを声に出して読んでいます。

また、図鑑には野鳥をより身近に感じられるようにと、その原典を戦前の資料にまで遡って野鳥の大きさと重さを載せています。野鳥観察にご利用下さい。

この冊子が湘南の多様で豊かな自然を感じるきっかけとなり、自然の維持復活へ繋がる一助になることを期待しています。

アオバト♂



撮影者：西ヶ谷 修一

桂川・相模川流域協議会入会のご案内

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。
協議会では、さまざまな活動を通じて、水源環境の保全・再生に努めています。

桂川・相模川流域協議会に興味を持った方はぜひ入会してください。

- ◎個人会員は 年会費 1口 1,000円(1口以上)
- ◎団体会員は 年会費 2口 2,000円以上
- ◎事業者会員は年会費 1口10,000円(1口以上)です。

詳しい案内はこちら

<振込先>

郵便振替：振込口座	00220-5-10259
名 義	桂川・相模川流域協議会
銀行振込：振込口座	三井住友銀行横浜支店
普通口座	6825559
名 義	桂川・相模川流域協議会
代表幹事	河西悦子

平成19年度 桂川・相模川流域協議会 定期総会のお知らせ

- 日時：5月19日(土) 13:00~15:30
- 会場：ソレイユさがみ(相模原市 JR橋本駅北口下車すぐ)

事業のご案内

桂川・相模川クリーンキャンペーン

当協議会では、桂川・相模川流域の各地域で、ゴミの清掃活動等を実践している方や団体を支援しています。事務局にゴミの清掃活動等の実施予定をお知らせいただいた方や団体には、軍手やゴミ袋(国土交通省京浜河川事務所提供)、水質調査キットなどの物資を提供します。

また、ご提供いただいた実施予定情報を、リーフレットの配布やホームページへの掲載により、年2回、情報発信しています。お住まいの近くでクリーンキャンペーンが開催される時などは、是非ご参加ください。

特定外来生物カワヒバリガイの警告!

つくばの農業環境技術研究所より警告が出ております。この貝は導水管などに付着して急増殖し、除去困難となります。



編集後記

今回初めて編集作業に携わり、一冊の会報誌が出来上がるまでには大変な作業と時間を要することを実感するとともに、滞りなく編集作業を進め本誌を継続的に発行できるのも、各方面で流域に関わる多くの方々のご協力があるからこそということを再認識しました。本誌が広く人々の手に渡り、流域への関心と新たな活動を生み出すきっかけになればと願っています。(C.S)



この印刷物は色覚障害の方に配慮し制作しています。

本誌に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せください。

あじえんだ113 No.18(2007.3.31発行)

発行 桂川・相模川流域協議会
編集 あじえんだ113編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://www.katura-sagami.gr.jp>

事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原三丁目3-3 TEL 0554-45-7811 FAX0554-45-7807
神奈川県環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL 045-210-4127 FAX045-210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)